

一般質問

大田原市の指定木・花・魚について



鈴木 央 議員

**質問**…市のホームページを拝見しますと市の木としてはイチヨウ、花として菊、市の魚としてはミヤコタナゴが大田原市のシンボルとして記載されています。指定に至る経緯が答弁いただけますでしょうか。また、新たな指定の可能性をお伺いします。

**答弁**…市の木、市の花、市の魚は、昭和49年市制施行20年という記念すべき年に、市民憲章の

制定に合わせてそれぞれイチヨウ、菊、ミヤコタナゴを指定しました。市の木、市の花を指定する際には市民を対象に公募を行い、選定部会での選考を経て、市長に答申を行い決定しました。

イチヨウの選定理由は、応募数が最も多く、成長力が強く大木にもなり、市の将来にふさわしいことでした。菊についても、応募数が最も多く市内での栽培

も盛んな上親しみやすい花であることが理由でした。ミヤコタナゴは、その年昭和49年6月に国の天然記念物に指定されたことから、市広報での周知等を経て市の魚として決定しました。

新たな指定の可能性は、市民の皆様から新たな指定等に関する声が上がりに、機運が高まるようであれば検討する必要があると考えています。



小野寺 尚武 議員

財政運営並びに財務書類について

**質問**…健全判断比率の推移から見た本市の現状について伺う。

**答弁**…実質公債費比率は、算定開始の平成19年度は12・1%でしたが、合併特例債等の交付税措置率の高い市債の発行に務めてきたことや合併直後に発行した市債の償還終了により徐々に改善して、29年度は8・6%となっており、将来負担比率は算定開始の平成19年度は10

5・5%でありましたが、その後市債残高や人件費の削減などにより平成29年度には51・1%になりました。今後はわずかに上昇すると見込んでおります。

**質問**…決算に見る財政運営判断指標の計画目標成果について。

**答弁**…財政の弾力性を示す経常収支比率は、99・5%と過去最高の比率となっており、計画目標をわずかに達成できず、財政

運営上の大きな課題となっております。要因につきましては合併算定外の段階的縮減によります交付税の減少が大きく影響いたしました。今後もこの傾向が続くと見込まれますので、市民サービスの維持向上を図りつつも自主財源の確保と徹底した経費節減による経常経費の節減に取り組んでまいります。